

## VI 未規制化学物質等の状況

### 1 調査概要

内分泌かく乱化学物質については、環境省が魚類への内分泌かく乱作用の疑いがあるとした2物質を調査した。

残留性有機汚染物質等については、生物蓄積性があり難分解性で長距離移動性があるPOPs条約規制物質に追加された1物質及び難分解性の1物質を調査した。

有機スズ化合物については、最近5年間の調査で環境省が設定した公共用水域の「水質評価の(暫定)目安値」(0.01 $\mu$ g/L)を超えたことがある1地点について2物質を調査した。

### 2 調査結果

#### (1) 調査物質

内分泌かく乱化学物質 (2物質) 4-*tert*-オクチルフェノール、ビスフェノールA

残留性有機汚染物質 (2物質) パーフルオロオクタンスルホン酸及びその塩、パーフルオロオクタン酸及びその塩

有機スズ化合物 (2物質) トリブチルスズ化合物、トリフェニルスズ化合物

#### (2) 調査地点及び調査対象

表VI-1及び2の県内5地点の水質並びに表VI-3の県内1地点の水質

#### (3) 調査結果

##### ア 内分泌かく乱化学物質

全ての地点で報告下限値未満であった。

##### イ 残留性有機汚染物質

残留性有機汚染物質の検出率は、100%であった。

パーフルオロオクタンスルホン酸及びその塩の検出率は100%であったが、直近の全国調査(平成26年度)の検出範囲(0.02ng/L未満~16ng/L)に比べて高くなかった。

パーフルオロオクタン酸及びその塩の検出率は100%であったが、直近の全国調査(平成26年度)の検出範囲(0.1ng/L未満~26ng/L)に比べて高くなかった。

##### ウ 有機スズ化合物

2物質とも水質評価の目安値以下であった。

表VI-1 平成29年度未規制化学物質調査結果(内分泌かく乱化学物質) 単位:  $\mu\text{g/L}$

地点名 \ 物質名	4- <i>tert</i> -オクチルフェノール	ビスフェノールA
伊東大川(渚橋)	<0.01	<0.01
河津川(館橋)	<0.01	<0.01
稲生沢川(本郷橋)	<0.01	<0.01
青野川(加畑橋)	<0.01	<0.01
白田川(しらなみ橋)	<0.01	<0.01
報告下限値	0.01	0.01
報告下限値以上/検体数	0/5	0/5

表VI-2 平成29年度未規制化学物質等調査結果(残留性有機汚染物質等) 単位:  $\text{ng/L}$

地点名 \ 物質名	パーフルオロオクタンスルホン酸及びその塩	パーフルオロオクタン酸及びその塩
伊東大川(渚橋)	1.0	1.1
河津川(館橋)	0.06	0.33
稲生沢川(本郷橋)	0.35	0.59
青野川(加畑橋)	0.16	0.55
白田川(しらなみ橋)	0.08	0.15
報告下限値	0.04	0.04
報告下限値以上/検体数	5/5	5/5

表VI-3 平成29年度未規制化学物質調査結果(有機スズ化合物) 単位:  $\mu\text{g/L}$

地点名 \ 物質名	トリブチルスズ化合物	トリフェニルスズ化合物
戸田漁港	<0.003	<0.005
水質評価の目安値	0.01	0.01
水質評価の目安値超過/検体数	0/1	0/1